

AWSコスト削減レポート

対象期間：2025年1月～2026年6月（18ヶ月）

¥19,368,639

実績コスト

¥1,753,556

削減可能額

9.1%

削減率

作成日：2026年8月

エグゼクティブサマリー

¥19.4M

実績コスト

\$124,775 USD

+¥1.06M

予算超過

平均+3.97%

¥1.75M

削減可能額

全体の9.1%

利用量増

コスト増加主因

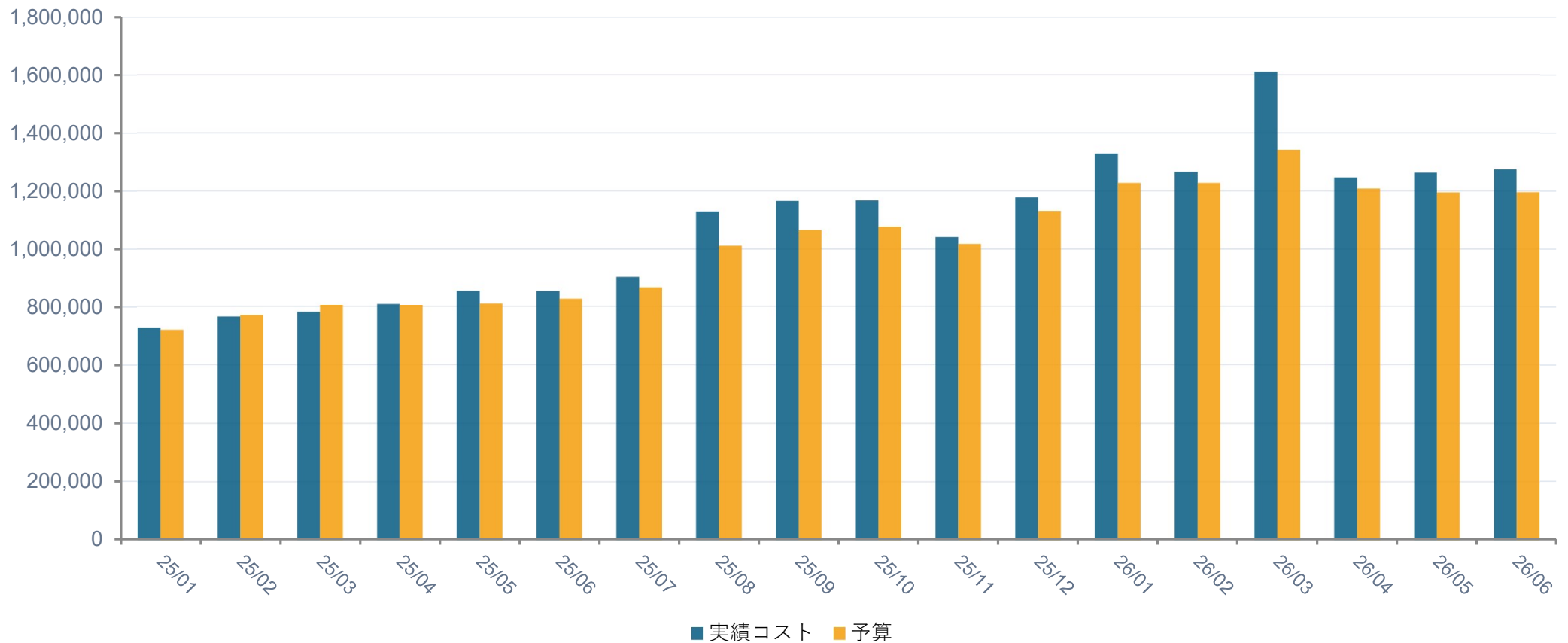
約90%寄与

主要ポイント

- コストは18ヶ月で約1.75倍に増加（¥73万 → ¥127万/月）
- 18ヶ月16ヶ月で予算超過が発生
- EC2・RDS・DataTransferの3サービスで削減余地の86%を占有
- 為替影響より利用量最適化が最優先対策
- 優先対応：Savings Plans/RI適用、ライトサイジング、キャッシュ最適化

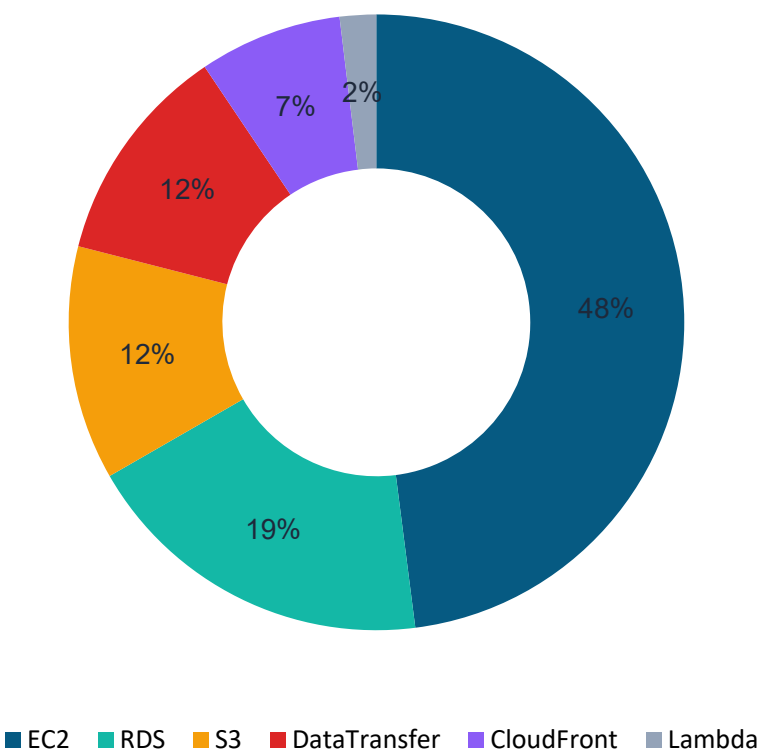
月別コスト推移（2025年1月～2026年6月）

実績コスト vs 予算（JPY）－ 18ヶ月 中16ヶ月で予算超過



サービス別コスト構成

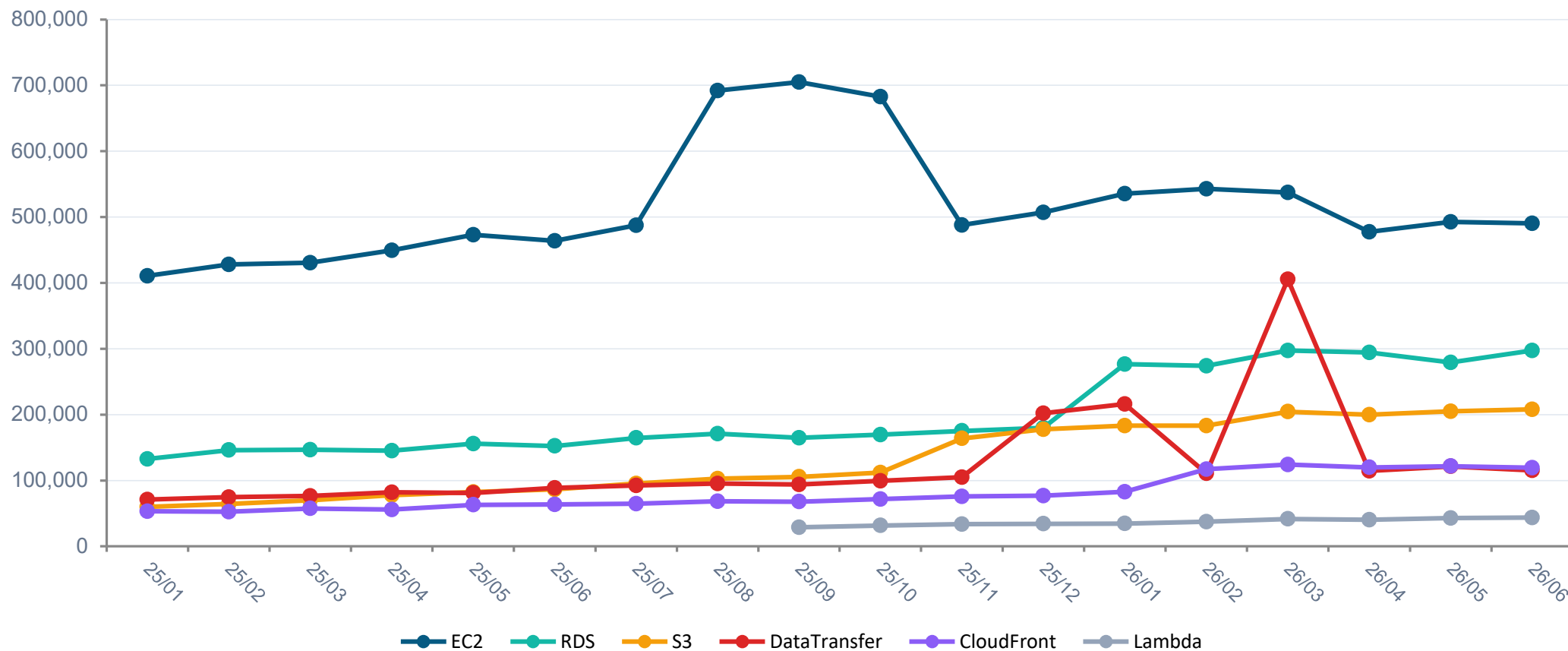
EC2が全体の48%を占め、削減余地も最大



サービス	実績(JPY)	全体比
EC2	¥9,294,317	48%
RDS	¥3,622,814	19%
S3	¥2,380,832	12%
DataTransfer	¥2,245,966	12%
CloudFront	¥1,455,835	8%
Lambda	¥368,875	2%

サービス別月別コスト推移

各サービスのトレンドと突発スパイクの可視化



突発的コスト増加の特定と原因推測

最も深刻なスパイク：2026年3月 DataTransfer +266%

時期	サービス	増加額	増加率	推測原因
2025年8月	EC2	+¥204,665	+42%	クラウドリフト検証によるサーバ台数増
2025年11月	S3	+¥51,907	+46%	ログ保存期間長期化によるストレージ増
2025年12月	DataTransfer	+¥97,233	+93%	CFキャッシュ未最適化による転送料増
2026年1月	RDS	+¥96,667	+54%	Multi-AZ化・ストレージ増加
2026年3月	DataTransfer	+¥294,609	+266%	月次バッチ・外部配信増による急増

⚠ **注目点**：突発スパイクの原因はすべて「利用量増加」であり、為替要因ではない。EC2の2025年8月スパイクは11月に復帰（一時的）、RDSのMulti-AZ化は恒常的コスト増となり継続対応が必要。

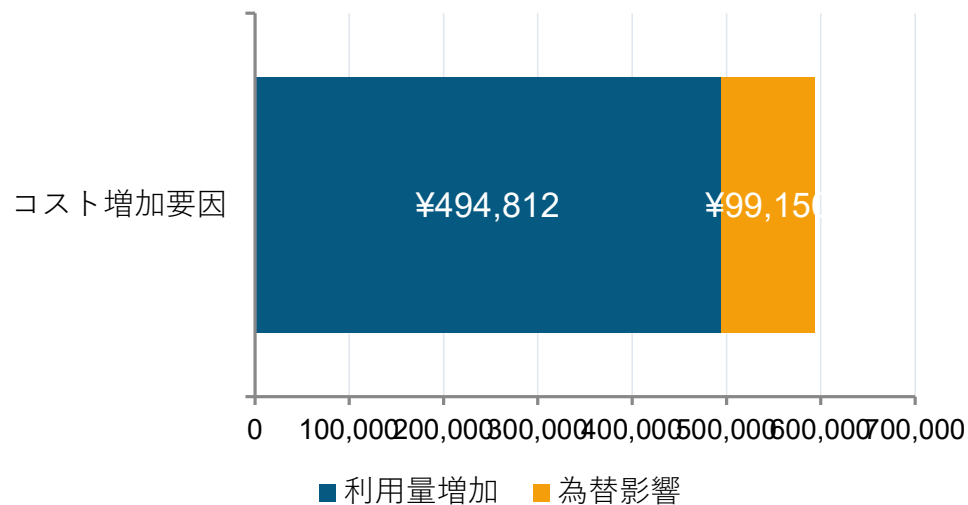
推測原因の判断方法と詳細調査方法

5つの突発スパイクそれぞれの調査ツールと確認手順

スパイク	推測原因	調査ツール	確認方法
2025/8 EC2 +42%	クラウドドリフト検証による サーバ台数増	CloudTrail Cost Explorer	RunInstances API呼出し履歴確認 インスタンスタイプ別コスト分解
2025/11 S3 +46%	ログ保存期間長期化による ストレージ増	S3 Storage Lens Cost Explorer	バケット別容量推移確認 ストレージクラス別コスト確認
2025/12 DT +93%	CFキャッシュ未最適化による 転送料増	CloudFront レポート VPCフローログ	キャッシュヒット率確認 オリジンへのリクエスト量分析
2026/1 RDS +54%	Multi-AZ化・ ストレージ増加	Cost Explorer RDS Performance Insights	Multi-AZ有効化タイミング確認 ストレージAutoScaling履歴
2026/3 DT +266%	月次バッチ・外部配信増 による急増	VPCフローログ CloudTrail NAT GW メトリクス	転送先IPアドレス分析 バッチジョブ実行ログ確認 NAT GW処理バイト数

コスト増加要因分析：為替 vs 利用量

コスト増加の90%は利用量増加が原因 — 為替ヘッジより最適化優先



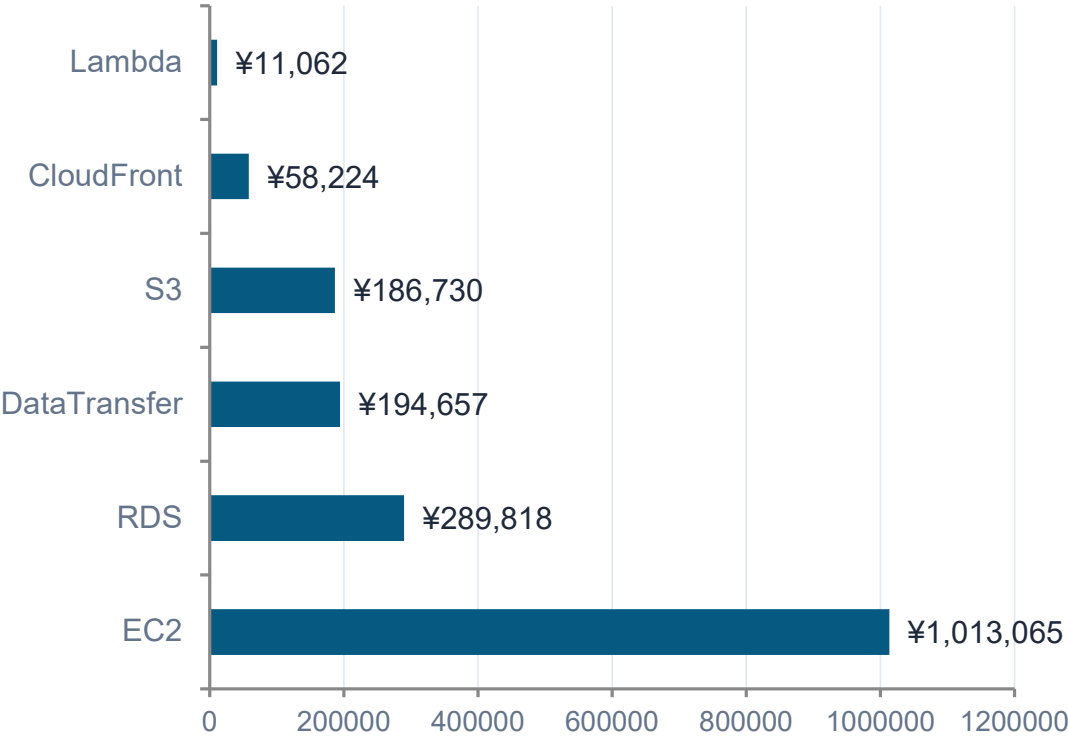
詳細内訳

- 利用量増加：+¥494,812（約90%）
USD: \$4,520 → \$7,932（+75.5%）
- 為替影響：+¥99,150（約18%）
145円/USD → 157.5円/USD（+8.6%円安）
- 合計JPYコスト増加：+¥546,950

✓ 結論：為替対策よりも、利用量の最適化（特にEC2・RDS・DataTransfer）に注力することがコスト削減の最大効果をもたらす

コスト削減余地ランキング

EC2・RDS・DataTransferの3サービスで削減余地全体の86%を占有



サービス	削減余地	削減率	予算超過
EC2	¥1,013,065	10.9%	¥472,114
RDS	¥289,818	8.0%	¥295,908
DataTransfer	¥194,657	8.7%	¥263,522
S3	¥186,730	7.8%	¥20,348
CloudFront	¥58,224	4.0%	¥7,580
Lambda	¥11,062	3.0%	¥2,003
合計	¥1,753,556	9.1%	¥1,061,475

サービス別削減アクション

優先:最高

EC2

削減余地 ¥1,013,065

- Savings Plans / RI適用
- Gravitonインスタンス移行
- 開発環境停止スケジュール
- ライトサイジング

優先:高

RDS

削減余地 ¥289,818

- インスタンスサイズ見直し
- Multi-AZ要件再検討
- ストレージ監視・上限設定
- RI適用

優先:高

DataTransfer

削減余地 ¥194,657

- CFキャッシュ率改善
- AZ間通信最適化
- バッチ処理分散
- 外向き転送削減

※各アクションの実施状況はAWS Cost Explorer・Compute Optimizerで要確認。RI/SP契約の有無はActualCostJPYのみでは判断不可

推奨アクションプラン

短期・中期・長期に分けた実行ロードマップ

1 短期（～1ヶ月）

- EC2ライトサイジング実施
- CloudFrontキャッシュ設定見直し
- S3ライフサイクルルール設定

2 中期（1～3ヶ月）

- EC2 Savings Plans / RI契約
- RDS Multi-AZ要件再検討
- バッチ処理タイミング最適化

3 長期（3～6ヶ月）

- EC2 Graviton移行
- RDS RI適用
- 全サービスコストアラート設定

追加削減余地（既存アクション対応済みの場合）

既存の基本アクション実施後に検討すべき追加施策 — さらに大幅なコスト削減が期待可能

施策	対象サービス	削減効果	導入難易度
Spotインスタンス活用	EC2	最大70～90%削減	中
Aurora Serverless v2移行	RDS	アイドル時ほぼゼロ	高
VPC Endpoint導入	DataTransfer	20～50%削減	低
S3 Glacier Deep Archive移行	S3	最大68%削減	低
CloudFront Origin Shield有効化	CloudFront	10～30%削減	低
コンテナ化・サーバーレス化	全体	中長期で大幅削減	高

💡 上記は既存の基本アクション（RI/SP適用・ライトサイジング等）が完了した前提での追加施策。導入順は難易度と効果のバランスで判断。

まとめ

¥1,753,556

合計削減余地

全体の9.1%

EC2 ・ RDS ・ DT

優先対応サービス

削減余地の86%

利用量最適化

最優先対策

為替は補助的

キーメッセージ

コスト増加の主因は利用量増加（約90%）であり、為替リスクへの対応より利用量最適化を最優先とする

- EC2 ・ RDS ・ DataTransferの3サービスへの集中対応で削減余地の86%を実現可能
- 短期アクション（ライトサイジング・キャッシュ最適化）を即実行し、中長期でRI/SP・Graviton移行を進める
- 追加削減余地：Spotインスタンス・Aurora Serverless v2・VPC Endpoint・Glacier Deep Archive等の活用で更なる大幅削減が可能